



吉田東伍記念博物館からのお知らせ

吉田東伍の遺稿選集『越後之歴史地理』を 100年ぶりに印影復刻しました

『越後之歴史地理』は東伍の実弟の高橋義彦が、東伍の越後に関する論説25編を撰び、校訂し、1925（大正14）年に郷里新潟の書店、萬松堂新潟支店が『越後之歴史地理 文学博士吉田東伍遺著』として出版したものです。

当初の刊行が地方出版であったため、流通部数も限られ、しかも重版や復刻履歴もないことから入手しづらい本となっていました。

同書刊行から100年。このたび吉田東伍記念博物館では当地の地域史研究にとって、いまだに示唆に富む有用な見解が多い『越後之歴史地理』を博物館叢書6として復刻しました。吉田東伍記念博物館で購入することができますので、この機会に、ぜひ手にとってご覧ください。



本の概要

吉田東伍記念博物館 博物館叢書6

【復刻版】『越後之歴史地理』

- 文学博士吉田東伍 遺著
- 頒布価格 1,800 円（税込）
- 四六版 原著本文 354 ページ

◆ 東伍の弟、高橋義彦のはなし

— 東伍の遺志を継ぎ、『越佐史料』を編さん —

高橋義彦は1870（明治3）年、旗野家の四男として生まれ、すぐ上の兄東伍とは「分身」と言われるほどの仲で、強い影響を受けて育ちました。

19歳の時に海老ヶ瀬（現新潟市東区）の豪農の養子となり、家業を助けますが、東伍が東京で『大日本地名辞書』の編さんを始めると、越後佐渡の史料収集を依頼され、自らも上杉謙信の研究など越佐の歴史研究に熱中していきます。

1917（大正6）年、兄東伍と会い、長年の研究をまとめた越佐に関する史料集の刊行を決断し、編集に専念します。ところが、翌1918（大正7）年、東伍が急死したと悲報が届きます。

義彦は失意の中から、次第に「越佐史料の編さんは兄が自分に課した遺言である」と考えるようになり、重大な責任を自覚して、ひとり史料の山に埋もれる日々を続けます。

待望の第1巻を1925（大正14）年に刊行し、その後5巻を刊行した1930（昭和5）年、今度は義彦本人が病魔に侵され、入院してしまいます。

続刊のため、原稿を病室に持ち込んで校正作業を続けていましたが、翌1931（昭和6）年春、未刊の原稿を残したまま亡くなります。

彼が刊行した『越佐史料』は今なお新潟県の歴史研究の基本資料として活用され続けています。



今年は『越佐史料』刊行開始から100年目の節目の年。これを記念して吉田東伍記念博物館では、特別講座を開催します。詳しくはお知らせ版14ページをご覧ください。

■ この記事に関する問い合わせ 吉田東伍記念博物館 ☎ 68-1200